

第1章

-目的・位置づけ等-



本戦略は、熊本市の生物多様性からのめぐみを将来の世代に引き継いでいくために、2030年までを対象期間とし、熊本市独自の生物多様性地域戦略として策定したものです。

第1章の概要について

☆戦略の「目的」と「対象期間・地域」、
「位置づけ」についてまとめています。

構成

概要

1.1 熊本市生物多様性戦略の目的 (P3)

この戦略は、生物多様性を保全し、
将来にわたってそのめぐみを受け続け
ていくことを目的として、策定してい
ます。

1.2 対象期間と対象地域 (1) 対象期間 (P3) (2) 対象地域 (P3)

対象期間は、2030年の世界目標で
ある「ネイチャーポジティブの実現
(自然再興)」に合わせ、2030年
までとします。

1.3 位置づけ (P4)

この戦略は、本市のまちづくりの基本
方針である「熊本市総合計画」のほか、
その他の分野の計画に対しても関連す
る戦略として位置づけ、生物多様性の
考え方を浸透させるものとします。

第1章 目的・位置づけ等

1.1 熊本市生物多様性戦略の目的

この戦略は、生物多様性を保全し、将来にわたってそのめぐみを受け続けていくことに向けた、市民、市民活動団体、事業者、行政等、熊本市の全ての主体の行動の指針となる基本的な計画として、策定するものです。

戦略を通して、様々な主体がそれぞれの役割のもと、連携・協働して、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けて取り組むことを推進し、市民一人ひとりが行動することで、人と自然が共生し、魅力と活力ある社会の構築を目指します。

1.2 対象期間と対象地域

(1) 対象期間

計画期間は、2030年の世界目標である「ネイチャーポジティブ(自然再興)[※]の実現」に合わせ、2024年から2030年までとします。また、本市のまちづくりの基本方針である熊本市総合計画との整合性を図るため、毎年検証を行うとともに総合計画の中間見直しに合わせた、戦略の見直しを検討します。

※「ネイチャーポジティブ(自然再興)」とは、生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において掲げられた考え方で、世界的に劣化した自然や生態系サービスの損失を止め、回復軌道に乗せることです。

	計画名	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
市	総合計画	次期(第8次)総合計画(8年間)							
	熊本市生物多様性戦略	▲改定				▲中間見直し			
国	生物多様性国家戦略	現行戦略(8年間)							
県	生物多様性くまもと戦略	現行戦略(8年間)							

2030年世界目標
「ネイチャーポジティブの実現」

図 1-1 熊本市生物多様性戦略の対象期間

(2) 対象地域

対象地域は、熊本市全域と隣接する海域とします。

なお、森や川、地下水など、周辺地域とのつながりを認識し、必要に応じて広域的な対応を図ります。

1.3 位置づけ

この戦略は、「生物多様性基本法」第13条に基づき策定するものであり、国の「生物多様性国家戦略2023-2030」及び熊本県の「生物多様性くまもと戦略2030」と整合を図ります。

生物多様性は、農林水産業、観光、歴史・文化、教育、気候変動、防災・減災、資源循環などの様々な分野と相互に関係していることから、本市のまちづくりの基本方針である「熊本市総合計画」に加え、その他の分野の計画に対しても関連する戦略として位置づけ、生物多様性の考え方を浸透させるものとします。

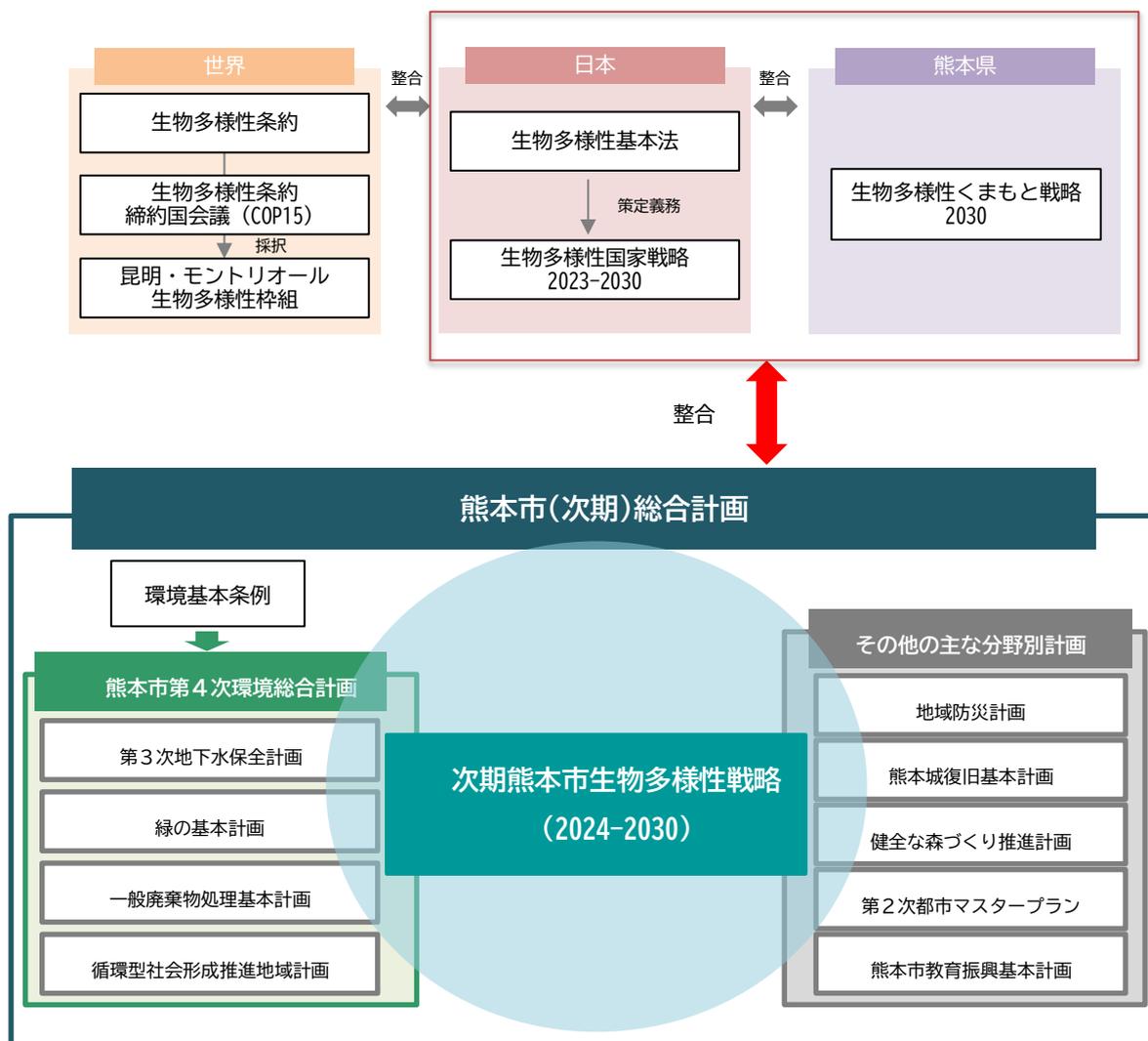


図 1-2 熊本市生物多様性戦略の位置づけ

コラム 1 生物多様性を守ることは、ヒトの未来を救うこと

現在私たちが今生きている時代を、人新世(じんしんせい・ひとしんせい)と呼ぶことが近年提唱されました。産業革命以後の約二百年間に、ヒトがもたらした森林破壊や気候変動への影響があまりにも大きいため、地質時代を区分する言葉として、ヒトの繁栄した時代を表す人新世が生まれたのです。約 46 億年に渡る地球史の最後のごく短い期間を指す地球史年表の区分で、20 世紀中頃以降を指すのが一般的です。人新世に深く関連するキーワードの一つが生物多様性です。生物多様性という言葉の持つ意味や現状は、本書の第2章に、生物多様性の定義、受けることのできるめぐみ、現在の危機、保全に関する国外や国内の現状が紹介されていますのでご確認ください。簡単に言えば生物多様性とは、生命の豊かさを包括的に表す概念であり、地球上における約 38 億年の生命の歴史を通じ、互いに影響しあいながら、進化を重ねることによって生じた歴史的産物です。ヒトは数えきれないほどの生物種とかかわり合い、歴史のなかで培った知恵と技術によって、その多くを利用しています。忘れてはならないのは、ヒト自身を含むそれらの生物が進化の結果として、相互に結び合い、適応し合って、一つの地球生命系をなしていることです。人新世ではたった 1 種の生物ヒトによる生物多様性の破壊が問題になっているのです。

本書は、熊本市の恵まれた豊かな生物多様性の特徴・現状・課題を紹介し、将来に渡って私たちが生物多様性と共存しながらどのように保全維持したらよいかを提案したものです。

地球生命系の一員としての自覚のもとに、その叡智を生かすことができるのか否か、ヒトの未来もまた、それにかかっています。熊本市民として生物多様性を守り続けることは、小さな一歩のように見えますが、ヒトの未来を救うことにつながるのです。

(執筆協力者:高宮正之氏・熊本大学大学統括管理運営機構シニア教授)

